

モザイクによるシルバーと障害者参加の被災地環境整備

復興支援助成

3年目

実践

協会を含む作業所
参加延べ人員

4,640人

6作業所全体の
モザイク完成面積

330m²

今年度計画の達成度

92%

目標達成度

87%



目立市復興新庁舎通所者モザイク試験施工

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

東日本大震災で直接津波等の被害にあった障害者は、健常者以上の恐怖心を持ち常に脅えていたが、作業には石割ハンマーなども使うことから、事故防止のため、常に安定した精神状態での作業を必要とした。

■工夫した点

モザイク製作作業には石割等の動的な面と繊細なアートを生む静を必要とする。日々のアート制作活動を各自のセラピーと結び付け、安定した作業ができるよう指導した。

課題

東日本被災地の環境整備にエコモザイク技術を修得したシルバーと、障害者を街づくりに参入させ独自の作品作りを復興に生かした自立支援。

目標

モザイクに全く縁のなかった人たちが復興に取り組む手段として技術を学び被災地に多くの作品を組み立てる。震災に砕けなかった自分達の生きた証しを作り上げる。

活動内容と成果

瓦礫を材料の一部とした作品を作り、シルバーと障害者が前面に立ち公共建設分野の扉を開く。被災地全体で6か所のモニュメントを製作。作品は被災地を訪れる多くの人の目に触れ新たな環境福祉を実現。特に、施工現場を紹介する活動として企画されたモザイクエコツアーは国内はもとより多くの外国の方もモニュメント、各作業所を訪れている。対応に際し製作者それぞれの体験とモザイクにかけた思いを説明、共感を得る。作品は東日本被災地パワーとして東京オリパラに障害者による建設参加壁画としても採用された。



びば南三陸シルバー会員によるモザイク製作



目立市復興新庁舎試験張り完了

全助成期間の活動を振り返って

東日本大震災を通し協会は被災地での福祉作業所、シルバーへの対応についてのノウハウを得る。特に被災地にある素材、発生した瓦礫をモザイク材料とした新商品開発は、作業所の製作各自はもとより地域のモチベーションを上げることにもつながり多くのモニュメント製作で色彩を放つ。また、新製品造りは環境福祉、自立救済のための武器を手にするための活動でもあった。今後この武器を活用し広く公共工事に普及させる段取りができた。

活動地域 | 千葉、茨城、福島、宮城、岩手

〒277-0033 千葉県柏市増尾177番地
電話：04-7170-5081
E-mail: ecoheiban@eco.ocn.ne.jp
<http://www.eco-heiban.com>



今後の
展望

彼らが身に付けたモザイク制作や試験張り施工で得た技術を、より広げ自立の後押しをするための活動が残されている。これまで販促の輪を各作業所を中心としていた活動を東日本全域に広げる必要がある。そのためには多くのメーカーとの提携を進め作業所のモザイクパーツをより公共工事等受止めやすく改良し販路を広げなければならない。かたや、壁画のようなアート作品は質を高め20年のオリパラ等の機会をいかして世界に発信したい。